

今回は特に一新抗生物質である Azaromycin と化学薬剤である Chlordantoin 及び Pipera-nitro-thiazole の効果についてしらべたので、従来発表して来た諸種薬剤の効果と比較した結果について報告する。

1) 試験管内での効果, Azaromycin, Chlordantoin は夫々12.5mcg/ml Pipera-nitro-thiazole は0.75mcg/ml で腔トリコモナスの発育を阻止する。

2) 臨床効果 i) Azaromycin: 腔錠は38例に使用し、全例1~2回の挿入によつて有効であつた。尿路内にトリコモナスが陽性であつた8例に内服で治療を行った結果5例に有効であつた。ii) Chlordantoin: 局所的治療剤であつて、91例に使用し1~3回の挿入によつて全例に有効であり、何れにも副作用は認められなかつた。

iii) Pipera-nitro-thiazole 10例に使用したに過ぎないが3~14日間の服用によつて腔内トリコモナスは消失する。

以上の治験例は現在経過観察中であるが、更に多数例について検し、これの遠隔成績についても述べる。

### 56. (演) トリコモナス腔炎の Metronidazole による全身療法の意義と 2, 3 の知見補遺

(福島医大) 貴家寛而, 大川知之, 吾妻達郎

#### 1. 局所治療の限界点

腔トリコモナス原虫は腔内のみならず、子宮頸管、尿道、膀胱等の隣接臓器及び配偶者たる男性にも寄生している。そこで本症の治療に際して女性のみを対称に、又腔内のみでの治療では、異所感染或は再感染を防ぎ得ず治療法としては片手落ちである。

#### 2. 局所治療で腔内のみでも清掃は完全に出来るか、

ト原虫は大部分腔内に寄生しているという考えは、従来の局所治療でも完全に治癒する例もあるので特に訂正する必要はない。併し試験管内での効果が直ちに生体内実験で効果の上らないのは、薬剤に対する耐性、免疫の問題を取り上げる以前に、腔内でさえ薬剤に接触しない原虫の存在が問題である。

#### 3. 全身療法の意義と Metronidazole

局所療法では薬剤に直接接触した原虫のみが治療の対称となるだけで、未接触の原虫及び隣接臓器更に男性に対する治療剤としては全身療法に頼らざるを得ない。

Metronidazole (Flagyl) は Nitroimidazole の誘導体で試験管内でも又生体内でも強い抗トリコモナス性を有することが分つた。そこで我々は Metronidazole を約

100例の本症患者に使用したところ、再発率が非常に少く、この種の治療剤としては、驚くべき好結果を得たので報告したい。

### 57. (演) 蛍光抗体法の産婦人科領域における応用

#### (第1報) 塗抹標本における真菌診断を中心として

(順天堂大) 水野重光, \*弓立博, 松田静治

抗原抗体反応の有する高度の特異性を利用した fluorescent antibody method が Coons 等により組織化学的領域に導入されて以来、細菌、ビールス等の分野にも急速にその応用が試みられ、近時感染症の診断に対する本法の実用的価値が強調されているが、吾々は産婦人科領域において、しばしば検出される酵母様真菌を主な対象に選び、その他溶血性連鎖球菌等について蛍光抗体法(直接、間接法)による迅速同定を行い、その成績を従来の形態学的、生物学性状検査と比較検討した成績を報告する。基礎実験として、始めに *C. alb* の因子血清(*C. trop* で吸収)を作製し、これに fluorescent isothiocyanate を結合させた fluorescent antiglobulin Solution を用い、*C. alb* 及びその他の真菌計78株について蛍光抗体反応を観察した結果、*C. alb* 30株ではいずれも特異的反応を示し、この特異性は交叉並びに抑制試験によつても証明し得た。

一方臨床材料として腔内真菌陽性(腔カンジダ症を含む)100例、新生児嚙口瘡20例の分離株における本法の同定成績は生物学的同定結果と殆んど一致しており、なお直接腔内 Swab smears による *C. alb* 及びその他 *Candida species* の迅速同定も可能であつた。さらに組織内真菌の同定法についても発表する予定である。溶血性連鎖球菌についても因子血清作製後、塗抹標本上の診断を咽頭、腔分泌物 Smears について行い、本法による Screening の可能性について検討を加えた結果を述べる。

### 58. (演) 新しい各種 Penicillin 製剤の産婦人科領域に於ける基礎的並びに臨床的検討

(日医大) 眞柄正直, 高瀬善次郎

直江光郎, 吉田雄一, 網野栄作

新しい合成 Penicillin 製剤である Phenoxyethyl PC, Dimethoxyphenyl PC 及び 5-Phenyl-4-Isosazolyyl PC 並びに持続性 PC 製剤である Dibenzylethylendiamin PC-V について次のような基礎的、臨床的検討を行つた

ので報告する。

即ち、これらと PC-G 或いは PC-V を Cross over して血中濃度、尿中濃度を測定し、また羊水、臍帯血、悪露への移行濃度を検した。これらはカッパ法の木村氏変法によつたもので静注用製剤では投与後1時間、経口投与では2～3時間で最高の血中濃度をとる。また羊水、臍帯血、悪露への移行も明らかに認められ、特に Dimethoxyphenyl-PC に於ては、母体血中の約2分の1の濃度が臍帯血中に移行する。

また入院患者腔内から分離したコアグラセ陽性ブドウ球菌に対する感受性を、試験管内倍数稀釈法により検したところ、Phenoxyethyl PC は実地使用後未だ1年たらずであるが、既に感受性の低下がみられる。これに対し Dimethoxyphenyl PC では1.25～5.0mcg/ml の間で発育を阻止する。更に産婦人科領域の感染症に重要な嫌気性菌の発育阻止濃度も検した。

その他、試験管内に於ける耐性獲得、交叉耐性、及び臨床成績についても報告する。

#### 59. (示) 腔カンディダ症の新検査法について

(日赤中央) 永井 英男

腔カンディダ症は、抗生物質が繁用されるためか、最近増加の傾向にあり、我々の外来でも屢々遭遇する様になったが、その診定は通常分泌物の所見によるため不的確な場合が多い。私は Nickerson 培地の特異性、Nylander 尿中糖定性検査の原理及び廉価な次硝酸ビスマス、炭酸ソーダー等を応用して、カンディダのための選擇培地(一種の寒天培地)を作成した。本培地は菌類のみが発育し得る特異培地であり、殊にカンディダでは室

温乃至体温程度(培地を上衣のポケット内に保持する)で24～48時間内に白色のコロニーとして発育し、72～86時間でその中心より漸次茶色となり、4日目には茶褐色に変色すると云う特性がある。以下この特異な性質を利用する本症の検査法に就き、その実施成績を報告する。

#### 60. (示) コルポスコープによる子宮腔部ビランの時期的変化について

(市立川崎病院) 早川 信義

子宮癌の早期診断として、最近コルポスコピーが重要視されて来た。これは現在子宮腔部に前癌性変化を発見することに意義があり、いわゆる狙い切除のためにかくべからざる手段となつて居る。私は川崎市立川崎病院において、腔部ビラン患者約300余名に対し、コルポスコピーを行い、同時に細胞診及び組織診と比較検討を行った。又特に炎症性変化に関連して発生せる赤色点及び赤色斑等について、その原因追求と各種治療を行いコルポスコピー所見変化の経過観察を行った。コルポスコピーは子宮腔部表面の悪性変化を見出し細胞診及び組織診を併用して癌の早期診断に用いられて居るが、それらのコルポスコピー所見の変化はたえず時とともに変化して居り、必ずしも一定の状態に止まつて居る訳ではない。炎症性変化として出現する赤色点及び赤色斑も、種々の条件においてその出現形態排列などの変化を見出すことが出来る。即ち子宮腔部ビラン面のコルポスコープ所見は炎症が存在する場合は一定不変のものではなく、時々刻々に可逆性変化をして居るものであることを観察したのでここに報告する。

### 第7群 不妊症に関する問題

#### 61. (演) 妊娠成立機序に関する研究(其の1)

(東邦大) 林 基之,\*木下 佐  
岩城 章, 百瀬和夫, 江口貞雄  
野口昭二, 竹下文雄, 竹下壽子  
田中浩, 斎藤イサヲ, 谷中昭夫  
田山二郎, 郭 博文, 丹羽義郎  
大木康志, 小野丞二, 安田 貢  
岡野雅幸, 西平守之, 楊 文勳  
本田昭博, 平塚 肇

1) 不妊症の妊娠成立: 妊娠成立機序の研究には不

妊症患者が妊娠した場合の分析が極めて重要である。1961年1月1日より11月30日迄東邦大学病院産婦人科外来を訪れた不妊症患者総数は392例で原因別統計では今迄の報告と大差はない。妊娠総数21例中、卵管形成術4, A I H+ホルモン療法1, ホルモン療法1, 試験搔爬2, H S G後4, 薬剤通水2, 無治療7であった。2) 体外受精: 開腹時卵胞内又卵管内より採取した未受精卵を培養し、夫の精子による体外受精を行つたが現在迄略確実な例があるが、単為生殖との鑑別が可なり困難である。3) 人工卵管: 全卵管閉塞症治療の新法として、硫黄を含まないゴムにより卵巣を包み、子宮と腹壁とを